

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	1311006100044
施設名	アソシエ都立大学保育園
施設所在地	目黒区平町1-19-14
法人名	株式会社アソシエ・インターナショナル

1. 活動のテーマ

<テーマ>

土・砂

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園庭がないため継続的に砂遊びをする機会がなく、公園で泥団子や大きな山を作っても帰る際には壊さなければならない場面を保育士が懸念しており、継続的な環境を設定し遊び込める環境を整え探究していけるように、このテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

6月：室内用の砂場を設置（3月まで継続的に砂遊びを保育に取り入れる）

8月：陶芸体験をし、土粘土の感触に触れる。熱を加えることで素材が変化することを知る

11月：5歳児は作品展にて保護者向けに探究活動の様子を発表

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

3歳児保育室内に一時的に砂場を設置。砂、砂入れ用の角層、カバーを準備。

その後、テラスに移動させ全園児で遊べるように設置。

陶芸体験では専門家による助言を受けながら、土粘土や型抜きを用意した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

園内に砂場を設置し保育中に砂遊びが取り組めるようにした。陶芸体験では専門家による助言を受けながら、年齢発達に合わせ取り扱いやすい量の土粘土を用意し作品を作った。焼入れ後には、皿と器を作った4、5歳児は実際におやつの際に使用した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

乳児は道具を使いながら砂をすくうことを楽しみ、量の加減や友だちと一緒に砂を運ぶ姿に発展していった。ふるいに砂を入れてみると、なかなか落ちない砂とすぐに落ちる砂があることに気付いた。また、量によって落ちる速度に変化があることに気付いた。何が違うのか保育者に問われると考えながら、探究しており砂の色が違うことを発見していた。幼児組は土粘土の固さが日頃使用している油粘土との違いを感じ、塊から形を作るためには力の強弱を感じていた。模様を付ける際に力を入れすぎると貫通してしまい、弱いとしっかりと模様にならないことを学んでいた。また、火入れをすることで素材が変化することにも驚いていた。5歳児は、光る泥団子を毎日磨きながら作成した。毎日作ることによって愛着がわき、ひび割れや二つに割れてしまうと泣くほど悲しんでいた。ろ過装置の作成過程で、粒子の違いにも興味を持ち場所によって土の違いがあるのかと疑問を抱き探究活動が発展していった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

園内に環境を設定したことで、時間、年齢に関係なく砂に触れる機会を設けることができた。公園と違い、落ち着いたテラスや室内で砂遊びができたので日頃は短時間で集中が切れてしまう子でもじっくり遊び込むことができ、環境の大切さを感じた。目的を持って作っている幼児と素材の変化に気付きながら遊んでいる乳児の発達の違いを全年齢が同じ素材を使って探究したことでより感じる事ができた。また、一年同じ素材を用意していたので時期によって子ども達を感じていることの変化にも具体的に気付き、子ども達の様子を共有する中で保育者同士でもお互い学びを深められた。